歴史シンポジウム・2特別歴史講座
満員御礼、約700名が楽しむ

長崎・佐賀からゲストを迎え、第4回維新ふるさと館シンポジウム開催

昨年12月13日、サンエールかごしまを会場に、第4回維新ふるさと館歴史シンポジウムを開催しました。今回のテーマは「薩摩は長崎・佐賀に何を学んだか」。当日は約390名の皆様が来場。

第1部では「グラバーとは何者だったのか」と題し、ブライアン・バークガフニ氏(長崎総合科学大学教授、グラバー園名誉園長)が幕末の薩摩・日本とトーマス・グラバーの関係に焦点を当てて基調講演。第2部では薩摩藩が長崎・佐賀との技術や人材交流を経て、何を学び、どう活かしたのか、肥後秀昭(当館歴史解説員)がコーディネーターを務め、ブライアン・バークガフニ氏、藤口悦子氏(公益財団法人鍋島報效会徴古館副館長)、福田賢治(当館特別顧問)3名のパネリストが明らかにしていきました。

●ブライアン・バークガフニ氏

●藤口悦子氏

来場者の皆様からは、「基調講演はユーモアも交えて分かりやすく楽しい話だった」「薩摩・長崎・佐賀の関係がわかった。もっと聞きたかった。来年も楽しみ」等の感想が多数寄せられました。今後も皆様のご意見を参考に、シンポジウムを開催してまいりたいと思います。

特別歴史講座を2回開催 315名が受講

昨年10月24日、吉満庄司氏(鹿児島県知事公室政策調整課専門員)を講師に、薩摩藩留学生であり、経済使節でもあった五代友厚を取り上げ、特別歴史講座「五代友厚、もう一つのミッション」を開講。

また、11月21日には、映画「海難1890」とのタイアップ企画による「海の国薩摩」と題して第2回特別歴史講座を実施しました。

受講者の皆様から、「これまで見たことのない資料や話が聞けて大満足」「海に囲まれた薩摩藩ならではの歴史があったのですね」等、喜びの声をいただきました。

●10月24日は午前・午後2回開講

温故地新 故(ふる)きを温(たず)ね、地元を新たに。

■維新ふるさと館古書店、初開店～好評でした

昨年、10月23日から11月15日まで、歴史ロード維新ふるさとの道で、「維新ふるさと博」が開催されました。

今回当館では、維新ふるさと博に合わせて初の試みとなる古書店を鹿児島県古書籍商組合の協力でオープン。鹿児島市内、東京から9店舗の古書店が出店。約5,000冊の古書が並びました。

開店中には、東京神田で古書店を経営する有馬浩一さんによるトークショーも開催。「懐かしいものや、かなり昔の本があり、時間を忘れて見入ってしまった。来年も開催してほしい」等、お客様からも大好評のうちに幕を閉じました。

●トークショーは開店中、6回開催

■2016年の「初笑い」も、加治屋町・維新ふるさと館から～前売券好評発売中

維新ふるさと館「新春寄席」を今年も開催します。今回のテーマは「龍馬とお龍と薩長同盟」。2016年は薩長同盟150年。ご家族、お友だちとぜひお越しください。

日　時：1月16日(土)・17日(日) 2日間公演
　　午後6時 ～ 7時30分
出　演：桂 竹丸 師匠
　　福田 賢治 維新ふるさと館特別顧問
入場料：前売券1,800円(当日券は2,000円)
※全席自由席
※各日とも限定150名様
＊前売券のお買い求めは維新ふるさと館まで

明治維新を分かりやすく、楽しく
ISHIN 維新

維新ふるさと館情報紙
【 No.16 】
■ 平成28年(2016年)冬季号
■ 発行：鹿児島市 維新ふるさと館
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23番1号
TEL.099-239-7700 / FAX.099-239-7800
http://www.ishinfurusatokan.info

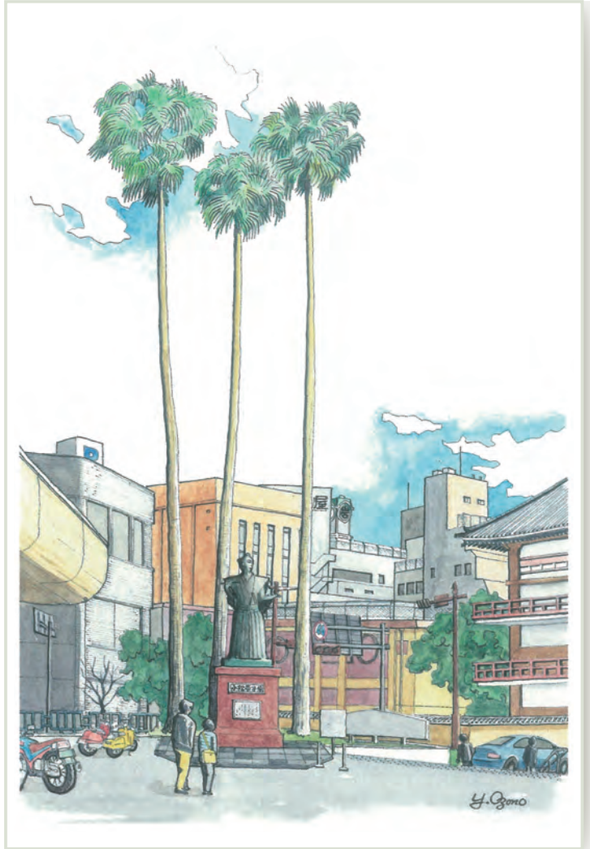
小松帯刀像「将軍慶喜に大政奉還を促す」小松の姿

維新を歩く

薩摩藩の本府である鹿児島城(鶴丸城)を抱く城山は「鶴が翼を広げた形」に似ているということから、古くは「鶴丸山」とか「鶴ヶ嶺」などと呼ばれていた。その鶴丸城二の丸跡にたつ西郷隆盛銅像と向かい合うかたちで、小松帯刀の銅像が宝山ホール前庭にたつ。かつて小松家屋敷は、宝山ホール横にある鹿児島東郵便局付近にあったことから、平成5年10月13日、現在地に銅像が建立されたものである。

慶応3年(1867年)、将軍慶喜が諸大名を京都の二条城に集め、「幕府は政権を朝廷に返還すべきかどうか」を問うた際、諸藩が将軍を前に意見を述べることを躊躇する中、薩摩の城代家老小松帯刀は、「将軍は直ちに政権を返還すべき」と即座に薩摩藩の考えを堂々と表明し、帳面に記帳したのであった。当時、小松は「薩摩の小松か、小松の薩摩か」と、周囲にいわしめるほどの権限を有していた。

銅像を制作した西俣敏弘氏は、小松が将軍慶喜に大政奉還を促し、記帳した時の姿を表現しようと考え、左手に帳面を、右手に筆を持ったポーズをイメージして制作したという。


小松帯刀像(鹿児島市山下町)　画 / 大園 康広

また、建立に当たっては、建立場所の決定が遅れ、銅像制作が先行したこともあって、建立場所と人物や史跡との関連、銅像が意味するポーズなどとマッチさせることに苦労したようである。銅像をよく見ると、小松の顔は正面にたつ西郷銅像を見ずして、やや横向きに斜め遠くを見つめている。その小松が見つめる視線の先には、照国神社があり、境内には小松が仕えた三人の主君、島津斉彬、久光、忠義という三公像を見つめる形で建立場所が決定されたという。

こうしたことを考え合わせ、改めて銅像の前にたたずむと、時代や人物に対する様々な思いと同時に、周りの景色や風情に心を動かされ、鹿児島の偉大な歴史の流れを改めて感ぜずにはいられないのである。

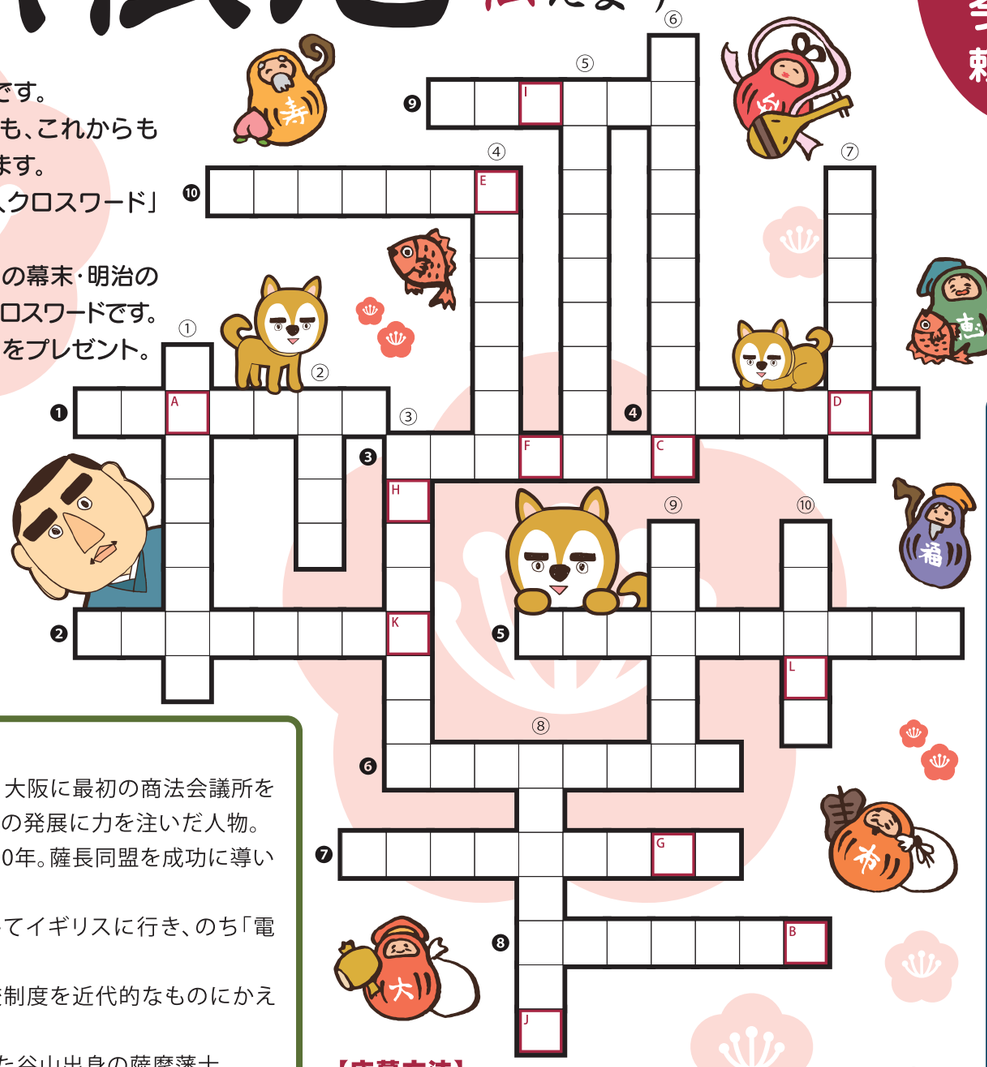
(文/福田賢治維新ふるさと館特別顧問)

維新ふるさと館 明治維新偉人クロスワード

維新伝心

維新の心を伝えます

明治維新150年まであと2年です。
維新ふるさと館は、これまでも、これからも「維新伝心」。維新の心を伝えます。
新春特別企画、「明治維新偉人クロスワード」に挑戦してみませんか。
当館で紹介している約150名の幕末・明治の郷土の偉人などの人名からのクロスワードです。
正解者には抽選で素敵な景品をプレゼント。



維新ふるさと館公式キャラクター タカ＆つん

【ヨコのカギ】

❶ 鹿児島市城ケ谷に生まれ、大阪に最初の商法会議所を設立するなど、大阪の商業の発展に力を注いだ人物。
❷ 2016年は薩長同盟から150年。薩長同盟を成功に導いた土佐藩士。
❸ 薩摩藩英国留学生を率いてイギリスに行き、のち「電信の父」と言われました。
❹ 初代文部大臣となり、学校制度を近代的なものにかえました。
❺ 寺田屋事件の様子を描いた谷山出身の薩摩藩士。
❻ 集成館事業をおこした、なれ寿司が好きな島津家藩主。
❼ 薩摩藩に招かれ、甲突川に五石橋を架けた肥後の石工。
❽ ほとんど警察の制服を脱いだことがないと言われた日本の警察制度を導いた初代警視総監。
❾ 「逃げの小五郎」と言われましたが、維新三傑のひとりです。
❿ 「明治の紫式部」といわれた女流歌人。鹿児島市立西田小学校の校歌にもでてきます。

【タテのカギ】

① 温泉と犬とうさぎ狩りが大好きな維新三傑のひとり。
② 黒豚と薩摩の赤味噌が好きな徳川家に嫁いだ女性。
③ 日本銀行設立者ですが、実は小さいころはお金に縁がありませんでした。
④ 坂本龍馬と同僚たちが亀山社中をつくるときに援助した薩摩藩家老。
⑤ 鹿児島市大黒町生まれで川崎造船所の創業者。
⑥ 砂糖増産などで藩の借金を返済した薩摩藩財政の救世主。
⑦ ナイフとフォークも上手に使いこなした薩摩藩英国留学生の団長。
⑧ 最年少の薩摩藩英国留学生。彼のつくったワインは今でも人気です。
⑨ 「湖畔」「アトリエ」などを描いた鹿児島出身の画家。
⑩ 大久保利通が「一蔵」と改称する前の通称は？

【応募方法】
①FAXかハガキで応募 ▶ ②答え、住所、氏名、年齢、電話番号を記入 ▶ ③維新ふるさと館あてに送る

【応募締切】
平成28年1月17日（日）必着

【送り先・問い合わせ】
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23-1　鹿児島市維新ふるさと館
TEL 099-239-7700 / FAX 099-239-7800
※応募いただいた方の個人情報は、景品の抽選・発送のみに使用いたします。

答え

A	B	C	D	E	F	G	を

H	I	J	K	L

館の宝物

西郷遺品（水滴・下駄・扇子）

西郷隆盛は、書をこよなく愛するとともに数多くの漢詩を創作しています。本館展示の「水滴」は、西郷が愛用した朱泥の水入れです。ところで西郷は誰から書を学んだのでしょうか。

安政5年、西郷が奄美大島に逃れた際に、重野安繹に出会っています。重野は漢学の才能があり、西郷の書や詩作に影響を及ぼしたと言われています。また、沖永良部島に遠島になった文久2年には、学者であり、書家でもある川口量次郎と知り合いになり、詩作や書の影響を受けた可能性があります。

一方で「西郷の詩作や書は独学ではないか」と言う意見もあります（鮫島志芽太氏）。氏によると、西郷が手本としたのは、沖永良部島の村長で通詞（通訳）を務めた操担晋であるとしています。担晋は、琉球で唐語を学び、鹿児島の造士館にも学んだ人で、漢詩、詩歌、囲碁などをよくし、詩・歌・書の手本や典籍の蔵書をたくさん持っていました。西郷は長男の担裁を介して、それらの書を借り受け、西郷独自の個性と、学習・修行・思念によって創意・創作したのではないかと指摘されています。

下駄や扇子については、残念ながら詳細が不明ですが、明治2年に東北諸藩の戦役処理をした西郷が「後のことは、大久保さんがいれば大丈夫」と薩摩に帰国、2月初めから日当山温泉に湯治に出かけますが、その際に考え事をしながらわらじを編んでいたために、ずいぶん大きな寸法になってしまったというエピソードがあります。ちなみに、この水滴、手作りの下駄は、憲政記念館で展示されました。